残留農薬分析がパラーアップ

しました

残留農薬多成分一斉分析 LC/MS/MS コース 131成分VEW

殺虫剤、殺菌剤、除草剤などのうち、比較的新しい成分の分析が得意な検査コースです。特に、近年、関心が集まっているネオニコチノイド系農薬検査が得意です。131成分の農薬残留について、島津製作所製 LCMS-8050 を利用した高精度、高感度分析を実施します。

残留農薬—斉分析 GC/MSコース クライン 230 成分 成分 残留農薬多成分一斉分析 **272**成 GC/MS コース

有機リン系農薬や合成ピレスロイド系農薬など、長く使われててきたタイプの殺虫剤、殺菌剤、除草剤などを広くカバーする分析コースです。今回、検査成分が、これまでの230成分から272成分に強化しました。分析費用は今までのまま。変わらない金額でご利用できます。

残留農薬一斉分析フルセットコース十両方合わせて成分

残留農薬多成分一斉分析 フルセットフルセットコース

残留農薬多成分一斉分析の GC/MS コースと LC/MS/MS コースをセットにしたフルセットです。 合計 378 成分の農薬を検査することができます (GC/MS と LC/MS/MS とで重複している成分が 25 成分ありますので合計 378 成分になります)。

検査対象成分名は別紙を参照して下さい。

一般社団法人 農民連食品分析センター 東京都板橋区熊野町 47-11 電話 03-5926-5131 FAX 03-3959-5660 power8@nouminreh.ne.jp

No.	
	MS272成分コース
1	BHC
2	γ-BHC
3	DDT
4	EPN
5	EPTC
6	XMC
7	アクリナトリン
8	アザコナゾール
9	2-アセチルアミノ-5- ニトロチアゾール
10	アセトクロール
11	アセフェート
12	アトラジン
13	アミトラズ
14	アメトリン
15	アラクロール
16	アレスリン
17	イサゾホス
18	イソキサチオン
19	イソフェンホス
20	イソプロカルブ
21	イソプロチオラン
22	イプロジオン
23	イプロベンホス
24	イマザメタベンズメチ
25	ルエステル イミベンコナゾール
26	ウニコナゾールP
27	エスプロカルブ
28	エタルフルラリン
29	エチオフェンカルブ
30	エチオン
31	エディフェンホス
32	エトキサゾール
33	エトフェンプロックス
34	エトフメセート
35	エトプロホス
36	エトリムホス
37	エンドスルファン
38	オキサジアゾン
39	オキサジキシル
40	オキサベトリニル
41	オキシフルオルフェン
42	オルトフェニルフェノ
43	ール カズサホス
43 44	カズサホス カフェンストロール
44 45	プフェンヘドロール カルフェントラゾンエ
τJ	ガルフェントラックエ チル
46	カルボキシン
47	キナルホス
48	キノキシフェン
49	キノクラミン
50	キントゼン
51	クレソキシムメチル
52	クロゾリネート
53	クロフェンテジン
54	クロマゾン
55	クロルエトキシホス
56	クロルタールジメチル
57	クロルピリホス
58	クロルピリホスメチル
59	クロルフェナビル
60	クロルフェンソン
61	クロルフェンビンホス
62	クロルブファム
63	クロルプロファム
64	クロルベンシド
65	クロロタロニル
66	クロロネブ
67	クロロベンジレート
68	シアナジン
69	シアノホス
70	ジエトフェンカルブ
71	ジオキサチオン
72	ジクロシメット
73	ジクロトホス
74	ジクロフェンチオン

No.	成分名
75	ジクロベニル
76 77	ジクロホップメチル ジクロラン
77 78	ジグロラン ジスルホトン
79	ジチオピル
80	シハロトリン
81	シハロホップブチル
82	ジフェナミド
83 84	ジフェニル ジフェニルアミン
85	ジフェノコナゾール
86	シフルトリン
87	ジフルフェニカン
88	シプロコナゾール
89	シペルメトリン
90 91	シマジン ジメタメトリン
92	ジメチピン
93	ジメチルビンホス
94	ジメテナミド
95	ジメトエート
96	シメトリン
97	ジメピペレート
98 99	シラフルオフェン ゾキサミド
100	ターバシル
101	ダイアジノン
102 103	チオベンカルブ
103	チオメトン
	チフルザミド
105 106	テクナゼン
106	テトラコナゾール テトラジホン
7.00	テニルクロール
108	テブコナゾール
110	テブフェンピラド
111	テフルトリン
112	デルタメトリン及びト
113	ラロメトリン テルブトリン
114	テルブホス
	トリアジメノール
	トリアジメホン
117 118	トリアゾホストリアレート
110	トリシクラゾール
120	トリブホス
121	トリフルミゾール
122	
123	トリフロキシストロビ
124	ン トルクロホスメチル
	トルフェンピラド
126	ナプロパミド
127	ニトロタールイソプロ
128	ピル ノルフルラゾン
130	パラチオン
	パラチオンメチル
	ハルフェンプロックス
133 134	ピコリナフェン ビテルタノール
134	ビフェノックス
136	ビフェントリン
137	ピペロニルブトキシド
138	ピペロホス
139	ピラクロホス
140	l I
141	ピラフルフェンエチル
142 143	ピリダフェンチオン ピリダベン
143	ピリフェノックス
145	ピリブチカルブ
	ピリプロキシフェン
147	ピリミジフェン
148	ピリミノバックメチル
149	ピリミホスメチル

10.	成分名	N
50	ピリメタニル	2
	ピロキロン	2
52 53	ビンクロゾリン ファムフール	
53 54	ファモキサドン	2
	フェナミホス	2
56	フェナリモル	2
57	フェニトロチオン	2
58	フェノキサニル	2
59 60	フェノチオカルブ フェノトリン	2
	フェンクロルホス	2
62	フェンスルホチオン	2
63	フェンチオン	2
64	フェントエート	2
65 66	フェンバレレート フェンブコナゾール	2
	フェンプロパトリン	2
68	フェンプロピモルフ	2
69	フサライド	2 2
70	ブタクロール	
71 72	ブタミホス ブピリメート	2
70	→ → - · · ·	2
74	フラムプロップメチル	2
75	フルアクリピリム	2 2
76	フルアジナム	2
77 78	フルキンコナゾール フルジオキソニル	2
	フルシィキケールフルシトリネート	2
80	フルシラゾール	2
81	フルチアセットメチル	2 2
	フルトラニル	2
83 84	フルトリアホール フルバリネート	2
	フルフェンピルエチル	2
86	フルミオキサジン	2
87	フルミクロラックペン	2
88	チル プレチラクロール	2
89	プロクロラズ	2
90		2
	プロチオホス	2
92 93	プロパクロール プロパジン	2
	プロパニル	2
95	プロパホス	2
96	プロパルギット	2
97	プロピコナゾール	1
98 99	プロピザミド プロヒドロジャスモン	2
	プロフェノホス	3
01	プロペタンホス	4
02	プロポキスル	5 6
03		
04 05	プロメトリン ブロモブチド	7
	ブロモプロピレート	8 9
07	ブロモホス	1
	ブロモホスエチル	1
09	ヘキサコナゾール	Ī
10	ヘキサジノン ベナラキシル	1
	ベノキサコール	1
13	ペルメトリン	Ī
14	ペンコナゾール	1
15	ペンディメタリン	1
16	ベンフラカルブ ベンフルラリン	1
	ベンフレセート	2
19	ホサロン	2
20	ホスチアゼート	2
21	ホスファミドン	l F

No.	成分名
227	メタクリホス
228	 メタミドホス
229	メタラキシル及びメフ
	ェノキサム
230	メチダチオン
231	メトキシクロール
232	メトプレン
233	メトミノストロビン
234	メトラクロール
235	メトリブジン
236	メビンホス
237	メフェナセット
238	メフェンピルジエチル
239	メプロニル
240	モノクロトホス
241	モリネート
242	レナシル
243	クロルニトロフェン
244	サリチオン
245	メチルジメトン
246	DCBP
247	テルブカルブ
248	アジンホスメチル
249	アニロホス
250	イマザリル
251	エポキシコナゾール
252	オリザリン
253	カルバリル
254	カルボフラン
255	ジノテフラン
256	ジメトモルフ
257	スピロキサミン
258	スピロジクロフェン
259	ダイアレート
260	ダイムロン
261	チアベンダゾール
262	テトラクロルビンホス
263	テブチウロン
264	ピラクロストロビン
265	ピリミカーブ
266	フィプロニル
	フィプロニル フェノキサプロップエ
266 267 268	フィプロニル フェノキサプロップエ チル フェノブカルブ
266 267 268	フィプロニル フェノキサプロップエ チル フェノブカルブ
266 267 268 269 270	フィブロニル フェノキサブロップエ チル フェノブカルブ フラチオカルブ フルフェノクスロン
266 267 268 269 270 271	フィプロニル フェノキサプロップエ チル フェノブカルブ フラチオカルブ フルフェノクスロン フルリドン
266 267 268 269 270 271 272	フィブロニル フェノキサブロップエ チル フェノブカルブ フラチオカルブ フルフェノクスロン フルリドン ボスカリド
266 267 268 269 270 271 272 LC/N	フィプロニル フェノキサプロップエ チル フェノブカルブ フラチオカルブ フルフェノクスロン フルリドン ボスカリド MS/MS131成分コース
266 267 268 269 270 271 272 LC/N	フィブロニル フェノキサブロップエ チル フェノブカルブ フラチオカルブ フルフェノクスロン フルリドン ボスカリド MS/MS131成分コース 2.4-D
266 267 268 269 270 271 272 LC/N	フィブロニル フェノキサブロッブエ チル フェノブカルブ フラチオカルブ フルフェノクスロン フルリドン ポスカリド MS/MS131成分コース 2.4-D MCPA
266 267 268 269 270 271 272 LC/N 1	フィプロニル フェノキサプロップエ チル フェノブカルブ フラチオカルブ フルフェノクスロン フルリドン ボスカリド WS/MS131成分コース 2,4-D MCPA TCMTB
266 267 268 269 270 271 272 LC/N 1	フィブロニル フェノキサブロップエ チル フェノブカルブ フラチオカルブ フルフェノクスロン フルリドン ポスカリド WS/MS131成分コース 2,4-D MCPA TCMTB アイオキシニル
266 267 268 269 270 271 272 LC/N 1	フィプロニル フェノキサプロップエ チル フェノブカルブ フラチオカルブ フルフェノクスロン フルリドン ポスカリド WS/MS131成分コース 2,4-D MCPA TCMTB アイオキシニル アザメチホス
266 267 268 269 270 271 272 LC/N 1 2 3 4 5	フィブロニル フェノキサブロップエ チル フェノブカルブ フラチオカルブ フルフェノクスロン フルリドン ボスカリド VIS/MS131成分コース 2,4-D MCPA TCMTB アイオキシニル アザメチホス アシベンゾラル-S-メ チル
266 267 268 269 270 271 272 LC/N 1 2 3 4 5 6	フィプロニル フェノキサプロップエ チル フェノブカルブ フラチオカルブ フルフェノクスロン フルリドン ポスカリド WS/MS131成分コース 2,4-D MCPA TCMTB アイオキシニル アザメチホス
266 267 268 269 270 271 272 LC/N 1 2 3 4 5	フィブロニル フェノキサブロップエ チル フェノブカルブ フラチオカルブ フルリドン ボスカリド vs/MS131成分コース 2,4-D MCPA TCMTB アイオキシニル アザメチホス アシベンゾラル-S-メ チル アジムスルフロン
266 267 268 269 270 271 1 2 2 2 3 4 5 6	フィブロニル フェノキサブロップエ チル フェノブカルブ フラチオカルブ フルフェノクスロン フルリドン ボスカリド VIS/MS131成分コース 2,4-D MCPA TCMTB アイオキシニル アザメチホス アシベンゾラル-S-メ チル
266 267 268 269 270 271 272 LC/N 5 6	フィブロニル フェノキサブロップエ チル フェノブカルブ フラチオカルブ フルリドン ボスカリド がS/MS131成分コース 2,4-D MCPA TCMTB アイオキシニル アザメチホス アシベンゾラル-S-メ チル アジムスルフロン
266 267 268 269 270 271 272 LC/N 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	フィブロニル フェノキサブロップエ チル フェノブカルブ フラチオカルブ フルフェノクスロン フルリドン ボスカリド VIS/MS131成分コース 2,4-D MCPA TCMTB アイオキシニル アザメチホス アシベンゾラル-S-メ チル アジムスルフロン アジンホスメチル アセタミブリド
266 267 268 269 270 271 272 LC/N 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	フィブロニル フェノキサブロップエ チル フェノブカルブ フラチオカルブ フルフェノクスロン フルリドン ボスカリド VIS/MS131成分コース 2.4-D MCPA TCMTB アイオキシニル アザメチホス アシベンゾラル-S-メ チル アジムスルフロン アジンホスメチル アセタミブリド アゾキシストロピン アニロホス アルジカルブ
266 267 268 269 270 271 272 LC/N 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	フィブロニル フェノキサブロップエ チル フェノオサブロップエ チル フェノブカルブ フラチオカルブ フルフェノクスロン フルリドン ボスカリド VIS/MS131成分コース 2.4-D MCPA TCMTB アイオキシニル アザメチホス アシバンゾラル-S-メ チル アジムスルフロン アジンホスメチル ア・ジムスルフロン アジンホスメチル アリチシストロピン アニロホス アルジカルブ イオドスルフロンメチ
266 267 268 269 270 271 272 2 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11	フィブロニル フェノキサブロップエ チル フェノブカルブ フラチオカルブ フルフェノクスロン フルリドン ポスカリド WS/MS131成分コース 2,4-D MCPA TCMTB アイオキシニル アザメチホス アシベンゾラル-S-メ チル アジンスホスメチル アセタミプリド アゾキシストロビン アニロホス アルブカルブ イオドスルフロンメチ ル
266 267 268 269 270 271 272 LC/N 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	フィブロニル フェノキサブロップエ チル フェノオサブロップエ チル フェノブカルブ フラチオカルブ フルフェノクスロン フルリドン ポスカリド MS/MS131 成分コース 2.4-D MCPA TCMTB アイオキシニル アザメチホス アシベンゾラル-S-メ チル アジンホスメチル アジンホスメチル アゾキシストロピン アンロホス アルジカルブ イオドスルフロンメチ ル イソキサフルトール
266 267 268 269 270 271 272 2 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	フィブロニル フェノキサブロップエ チル フェノオサブロップエ チル フェノブカルブ フラチオカルブ フルリドン ポスカリド WS/MS131成分コース 2,4-D MCPA TCMTB アイオキシニル アザメチホス アシベンゾラル-S-メ チル アジムスルフロン アジンホスメチル アジムスルフロン アジンホスメチル アピタミプリド アゾキシストロピン アニロホス アルジカルブ イオドスルフロンメチ ル イソキサフルトール イプロバリカルブ
266 267 268 269 270 271 1 2 2 3 4 5 6 6 7 8 9 10 11 12 13	フィブロニル フェノキサブロップエ チル フェノオサブロップエ チル フェノブカルブ フラチオカルブ フルリドン ボスカリド WS/MS131成分コース 2,4-D MCPA TCMTB アイオキシニル アザメチホス アシベンゾラル-S-メ チル アジムスルフロン アジンホスメチル アジムスルフロン アジカストロピン アニロホス アルジカルブ イオドスルフロンメヂ ル イソキサフルトール イマザキン
266 267 268 269 270 271 1 2 2 3 4 5 6 6 7 8 9 10 11 12 13	フィブロニル フェノキサブロップエ チル フェノオサブロップエ チル フェノブカルブ フラチオカルブ フルリドン ボスカリド がS/MS131成分コース 2,4-D MCPA TCMTB アイオキシニル アザメチホス アシベンゾラル-S-メ チル アジムスルフロン アジンホスメチル ア・ジムスルフロン アンドシストロビン アニロホス アルジカルブ イオドスルフロンメチ ル イソキサフルトール イマザキン イマザリル
266 267 268 269 270 271 272 LC/N 1 2 3 4 5 6 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17	フィブロニル フェノキサブロップエ チル フェノオサブロップエ チル ファノオカルブ フラチオカルブ フルリドン ボスカリド ボS/MS131成分コース 2,4-D MCPA TCMTB アイオキシニル アジメチホス アシベンゾラル-S-メ チル アジムスルフロン アジンホスメチル アセタミプリド アゾキシストロビン アニロホス アルジカルブ イオドスルフロンメヂ ル イフロバリカルブ イマザキン イマザリル イミダクロプリド
266 267 268 269 270 271 272 LC/II 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18	フィブロニル フェノキサブロップエ チル フェノオサブロップエ チル フェノブカルブ フラチオカルブ フルリドン ボスカリド がS/MS131成分コース 2,4-D MCPA TCMTB アイオキシニル アザメチホス アシベンゾラル-S-メ チル アジムスルフロン アジンホスメチル ア・ジムスルフロン アンドシストロビン アニロホス アルジカルブ イオドスルフロンメチ ル イソキサフルトール イマザキン イマザリル
266 267 268 269 270 271 272 2 3 4 4 5 6 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18	フィブロニル フェノキサブロップエ チル フェノオサブロップエ チル フェノブカルブ フラチオカルブ フルフェノクスロン フルリドン ボスカリド KS/MS131成分コース 2,4-D MCPA TCMTB アイオキシニル アジメチホス アシベンゾラル-S-メ チル アジムスルフロン アジンホスメチル アジムスルフロン アジンホスメチル アジムスルフロン アジカルブ アロホス アルジカルブ イオドスルフロンメチ ルイフロバリカルブ イマザキン イマダノファン インドキサカルブ エタメツルフロンメチ
266 267 268 269 270 271 272 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21	フィブロニル フェノキサブロップエ チル フェノキサブロップエ チル フェノブカルブ フラチオカルブ フルフェノクスロン フルリドン ボスカリド WS/MS131成分コース 2,4-D MCPA TCMTB アイオキシニル アジメチホス アシベンゾラル-S-メ チル アジムスルフロン アジンホスメチル アジムスルフロン アジンホスメチル アリドラル・S・メ チル アゾキシストロビン アニロホス アルジカルブ イオドスルフロンメチ ル イフザチン イマザチン イマザチン イマザチン イマザチン イマザチン イマゲチウロブリド インダノファン エタメッルフロンメチ ル
266 267 268 269 270 271 272 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21	フィブロニル フェノキサブロップエ チル フェノキサブロップエ チル フェノブカルブ フラチオカルブ フルフェノクスロン フルリドン ボスカリド MCPA TCMTB アイオキシニル アジメチホス アシベンゾラル-S-メ チル アジムスルフロン アジムスルフロン アジンホスメチル アジムスルフロン アジンホスプルド アゾキシストロビン アニロホス アルジカルブ イオドスルフロンメチ ル イフザチン イマザチン イマザチン イマザチン イマジクロアン イマダクロアリド インダノファン インドキサカルブ エタメツルフロル エチプロール
266 267 268 269 270 271 272 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23	フィブロニル フェノキサブロップエ チル フェノキサブロップエ チル フェノブカルブ フラチオカルブ フルフェノクスロン フルリドン ボスカリド VS/MS131成分コース 2.4-D MCPA TCMTB アイオキシニル アザメチホス アジムスルフロン アジンホスメチル アジムスルフロン アジンホスメチル アリドン アジカルブ アリド アゾキシストロピン アニロホス アルジカルブ イオドスルフロンメチ ル イマザキン イマザリル イマザキン イマザリル イマダクロアリド インダノファン インドキサカルブ エタメツルフロンメチ ル エチプロール エトキシスルフロン
266 267 268 269 270 272 272 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24	フィブロニル フェノキサブロップエ チル フェノキサブロップエ チル フェノブカルブ フラチオカルブ フルフェノクスロン フルリドン ボスカリド VS/MS131成分コース 2.4-D MCPA TCMTB アイオキシニル アザメチホス アシムスルフロン アジンホスメチル アジムスルフロン アジンホスメチル アゾキシストロピン アニロホス アルジカルブ イマザキン イマザリル イマザリル イマザリル イマザリル イマザリル インドキサカルブ エタメッルフロンメチ ル エチオンコーン エポキシコナゾール
266 267 268 269 270 271 272 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23	フィブロニル フェノキサブロップエ チル フェノキサブロップエ チル フェノブカルブ フラチオカルブ フルフェノクスロン フルリドン ボスカリド VS/MS131成分コース 2.4-D MCPA TCMTB アイオキシニル アザメチホス アジムスルフロン アジンホスメチル アジムスルフロン アジンホスメチル アリドン アジカルブ アリド アゾキシストロピン アニロホス アルジカルブ イオドスルフロンメチ ル イマザキン イマザリル イマザキン イマザリル イマダクロアリド インダノファン インドキサカルブ エタメツルフロンメチ ル エチプロール エトキシスルフロン

27 オキシカルボキシン

	ンル
35	クロジナホップ酸
36	クロチアニジン
37	クロランスラムメチル
38	クロリダゾン
39	
39 40	クロリムロンエチル
	クロルスルフロン
41	クロロクスロン
42	ジウロン
43	シクラニリド
44	シクロエート
45	
46	ジクロスラム
40 47	シクロスルファムロン
	ジノテフラン
48	シフルフェナミド
49	ジフルベンズロン
50	シプロジニル
51	シメコナゾール
52	ジメチリモール
53	ジメトモルフ
54	
	スピノサド
55	スピロキサミン
56	スピロジクロフェン
57	スルフェントラゾン
58	スルホスルフロン
59	ダイアレート
60	
61	ダイムロン
62	チアクロプリド
	チアベンダゾール
63	チアメトキサム
64	チオジカルブ及びメソ
0.5	ミル
65	チジアズロン
66	チフェンスルフロンメ
	チル
67	テトラクロルビンホス
68	テブチウロン
69	テブフェノジド
70	トラルコキシジム
71	トリアスルフロン
72	
73	トリクロピル
	トリチコナゾール
74	トリフルムロン
75	トリフロキシスルフロ
76	ン
	ナプタラム
77	ナプロアニリド
78	ニテンピラム
79	ノバルロン
80	ハロキシホップ
	ハロスルフロンメチル
82	パロスルフロジメチル ピラクロストロビン
83	ピラグロストロビン ピラゾスルフロンエチ
84	ルニバロナト
	ピラゾリネート
85	ピリフタリド
86	ピリミカーブ
87	フィプロニル
88	フェノキサプロップエ
	チル
89	フェノキシカルブ
90	フェノブカルブ
91	フェリムゾン
	フェンアミドン
93	
	フェンピロキシメート
94	フェンヘキサミド
95	フェンメディファム
96	ブタフェナシル
97	フラザスルフロン
	フラチオカルブ
99	
	ノノストロル
IUI	フルフェノクスロン
100	フラメトピル フルフェナセット フルフェノクスロン

No. 成分名

28 オリザリン
29 カルパリル
30 カルプロバミド
31 カルボフラン
32 キザロホップエチル
33 クミルロン
34 クロキントセットメニ

No.	成分名
102	フルメツラム
103	フルリドン
104	フロニカミド
105	プロパキザホップ
106	プロポキシカルバゾン
107	ブロモキシニル
108	フロラスラム
	ヘキシチアゾクス
110	17 17774
111	ペンシクロン
112	127007 11271770
113	12 / 12/12/12/
114	ボスカリド
115	ホメサフェン
117	ホラムスルフロン ホルクロルフェニュロ
117	ハルクロルノエーユロ
118	メコプロップ
119	メソスルフロンメチル
120	メソミル
121	// // // // // // // // // // // // //
122	メチオカルブ
123	メトキシフェノジド
124	メトスラム
125	メトスルフロンメチル
126	ハハーヒッム
	モノリニュロン
128	ラクトフェン
129	リニュロン
130	
131	ロテノン



LC/MS/MS とで重 複している成分が 25成分あります)。

★オニコチノイド系農薬を巡る海外の動き

日弁連資料の別添「ネオニコ系農薬海外規制の動向」がわかりやすい。海外の動き詳細は別紙参考のこと・EUは、2013年より一時的に使用禁止しているクロチアニジン、イミダクロプリド、チアメトキサムについて包括的使用禁止方針が報道

- ・フランスは18年9月から全てのネオニコ系農薬を禁止
- ・EUで2014年から一部使用制限されていたフィプロニルが9月失効
- ・米国,2015年イミダクロプリド,クロチアニジン,チアメトキサム,ジノテフランの新規登録,変更を停止
- ・カナダはジノテフランの段階的禁止の方針
- ・韓国は2014年、EUの一時禁止を受け、クロチアニジン、イミダクロプリド、チアメトキサム使用禁止
- ・台湾では2017年、養蜂農家の要請を受け、ネオニコ3剤のライチとリュウガンへの使用を2年間禁止

市販農産物のネオニコチノイド系農薬残留検査結果

分析センターで、市販品などについて残留農薬378成分分析をおこなった結果は以下の通り(表5)。

- ・ネオニコチノイド系農薬を超高感度分析をおこなうと、検出が認められるものが多い
- ・ネオニコチノイド系農薬の検出頻度は高いが、濃度はかなり低い事がわかる。
- ・基準値超過はない。基準値が日本は高いという議論があるが、EU基準でもクリアしているものはある。

表5 市販農産物のネオニコチノイド系農薬残留検査結果

品名	分析結果		日本の基準値	EU基準値	備考
ブロッコリー	クロチアニジン	0.0004	1	0.02	ネオニコ
	ジノテフラン	痕跡	2	0.01	ネオニコ
	チアメトキサム	0.0017	5	0.3	ネオニコ
	ボスカリド	痕跡	5	5.0	
キャベツ	クロチアニジン	0.0004	0.7	0.02	ネオニコ
	ジノテフラン	痕跡	2	0.01	ネオニコ
	チアメトキサム	0.0048	5	0.02	ネオニコ
大根の根	検出せず		-	-	
大根の葉	ボスカリド	0.0081	40	2.0	
にんじん	検出せず		-	-	
小ねぎ	クロチアニジン	0.0009	1	0.01	ネオニコ
	チアメトキサム	0.0007	2	0.01	ネオニコ
	ニテンピラム	0.0006	2	0.01	ネオニコ
	フルフェノクスロン	0.0006	10	0.05	
	ペルメトリン	0.12	3.0	0.05	
レタス	アセタミプリド	0.0116	10	3.0	ネオニコ
玄米1	検出せず		-	-	JAS有機
玄米2	検出せず		-	-	特別栽培
玄米3	検出せず		-	-	JAS有機
玄米4	検出せず		-	-	JAS有機
玄米5	検出せず		-	-	JAS有機
玄米6	ジノテフラン	0.0023	2	8.0	ネオニコ
玄米7	ジノテフラン	0.0023	2	8.0	ネオニコ
玄米8	ジノテフラン	0.0019	2	8.0	ネオニコ
	リニュロン	0.0041	0.1	0.05	除草剤
	フェリムゾン	0.0073	2	0.01	殺菌剤
玄米6	検出せず			8.0	ネオニコ
玄米7	ジノテフラン	0.0098	2	8.0	ネオニコ
玄米8	ジノテフラン	0.0028	2	8.0	ネオニコ

ネオニコチノイド系農薬の環境と人への影響

海外の研究論文では、イミダクロプリド、ジノテフラン、クロチアニジンなどは、蜂や昆虫、プランクトンに影響を及ぼすことを示すものでている。日本国内でも、金沢大学、畜産草地研究所、石川県立大による報告などがある。人への影響は、子供の神経系の発達に影響を及ぼすという可能性については、まだ明確なものはなく、議論が行われているところ。国立環境研究所の前川文彦さんの論文によれば、アセタミプリドがラットの行動に影響を及ぼしていることが示されている。

ネオニコチノイド系農薬に対して想定される取り組み(分析センターの提案)

- 1. ネオニコ系農薬の学習会
 - > まずネオニコ系農薬の事を知る(使うからにはその影響と研究を知っておくこと)
- 2. 残留農薬 (ネオニコ系農薬を含む) の検査運動
 - > 使うからにはしっかり検査を(検出レベルは厳しいとされるEU基準を下回るはず)
- 3. 蜜源を増やす取り組み(次項参考のこと)
 - >ネオニコ系農薬の人体影響は明確ではない。散布自体が環境影響を及ぼす悪、という流れ >散布するからには環境負荷を減らす、生産社なりの取り組みが必要。
- 4. ネオニコ系農薬に変わる薬剤や技術開発の要請運動
 - > EU諸国では3剤の使用禁止はほぼ確定。この流れは日本にも来る?

蜜源とネオニコ系農薬との関係

ネオニコ系農薬の広い普及と使用が、蜂群崩壊症候群やミツバチ類減勢の「原因の一つ」であると考えられるが、同時に、ミツバチに必要な蜜源が不足していることも重要な課題。 蜜源の不足が、蜂たちの病害虫抵抗性や強群化に影響しているという点は、重要。





>弱ったところにネオニコ、これが効いていると。

- >都会より、田園地帯や畑作特化な地域で蜜蜂を飼う方が難しい。
- >モノカルチャー化が進んでいて、ミツバチの蜜源がほとんど無くなっている。
- >ある一時期は大量に蜜源になる花があるが、それが終わると辛い季節に突入することになる。

蜜源を植えよう運動

休耕地やちょっとした空き地に蜜源植物を栽培する運動。カーボンオフセットのミツバチ版みたいな取り 組み。これはそんなに難しくないはず。成果とその効果を評価する方法が難しいぐらい。

>どんな植物を植えるべき?

2月15日、ミツバチの研究者、干場先生に相談。蜜源に向いている植物を伺ってきた。ミツバチには花蜜と花粉が必要。これを満たし、なおかつ一年間を通して花が、途絶えないリレー栽培。

- ナタネ(開花時期:春3~5月、播種:9,10,11月、特徴:緑肥植物)
- レンゲ (開花時期:春4~6月、播種:9,10,11月、特徴:連作不可、緑肥植物、レンゲ蜜は定番
- ホワイトクローバー(開花時期:春4~6月、播種:3,4,9,10月、特徴:緑肥植物)
- ヘアリーベッチ(開花時期:春4~5月(7月)、播種:9,10,11月、特徴:緑肥被覆植物)
- ・ ハゼリソウ(開花時期:夏秋7~10月、播種:春播3,4月、秋播10,11月、特徴:緑肥植物)
- カラミンサ(開花時期:夏冬7~11月、播種:春播3,4,5月、秋播9,10月、特徴:ハーブティ)
- ヒメイワダレソウ (開花時期:夏冬6~9月、播種:冬以外ならOK、特徴:耐暑寒)















ネオニコチノイド系農

薬をめぐる海外の動き

2017年

【フランス】フランス行政裁判所 スルホキサフロルを一時差し止め。フランス・ニース地方行政裁判所は11月24日、スルホキサフロルを含む2つの農薬を一時禁止とする予備判決を下した。日本ではスルホキサフロルが承認間近となっている。

2017年

【イギリス】英国はEUが進めようとしているネオニコチノイド農薬の包括的な禁止に賛成すると、11月9日付けのガーディアン紙(英国)が報じた。英国のマイケル・ゴーヴ環境・食料・農村地域(DEFRA)相が語ったもので、ネオニコ系農薬によるミツバチなどへの悪影響を明らかにした、最近の研究結果を考慮したものだという。英国は、EUにおけるイミダクロプリドなどのネオニコ系農薬の禁止について、12月にも予想されるEU委員会の投票で賛成票を投ずるという。

2017年 5月 【アメリカ】米国小売大手のウォルマートとトゥルーバリューは段階的ネオニコ系農薬の排除を明らかにしたと大地の友が発表。電子メールで回答を寄せたウォルマートは、生産者がすでに80%の園芸植物からネオニコ系農薬を排除したことを確認したという。ウォルマートはまた、販売している園芸用品からのネオニコ系農薬を排除したとしている。

2017年 4月 【英国】ホームセンターB&Qは、来 春までネオニコ・フリーにすると発表。 【英国】政府は、全英農業者連盟に よるナタネ栽培へのネオニコ系農薬の 緊急使用申請を却下

【アメリカ】米国連邦地裁は、米環境保護庁のネオニコ系農薬のクロチアニジンとチアメトキサムの農薬登録が 絶滅危惧種保護法に違反するとの判決、と原告が発表

[アメリカ]メリーランド州議会、送 粉者保護を目的として同州が指定した 区域における、ネオニコチノイド農薬 などの使用禁止州法案を可決

2017年 3月 **[EU]**EU委員会、一時使用禁止のネオニコ系農薬3剤について全面禁止のドラフトが明らかに

2017年]月 [アメリカ]米国魚類野生生物局は、ネオニコ系農薬も原因としてあげ、マルハナバチ(ラスティーパッチド・バンブルビー)が20年間で87%減少し絶滅危惧種に指定と発表

2016年 12月 【アメリカ】米国小売大手のコストコ、 ミツバチ保護の観点から販売する園 芸植物の脱ネオニコ方針(2016年6 月付)を発表。

2016年]]月 **【カナダ**】カナダ保健省、イミダクロ プリドを3年で使用禁止の方針を発表

2016年 7月 **【フランス】**原則 18 年 9 月からネオ ニコ系農薬を全面禁止。

2016年 5月 【アメリカ】メリーランド州議会、18年1月1日からの全てのネオニコ系農薬の販売と農家などを除く個人使用禁止法が成立

2016年 4月 [アメリカ] 家庭用農薬メーカー、ミツバチ保護の観点から脱ネオニコ

ドインでは、2008年、軽の個体数級への対応として、業種語とトウモロニン種子コーティング用の製出新製品として、ネオニコング目 7 (47 天張 東のイミグロコワ) ド刻き権 2 アメトキリム剤 1種、クロチアニシン剤 2 種の登録を一時停止した。 2013年の応援制を受けて、ドイフはテアメトキサム人利 2 種の登録を一時の上した。 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1			T
の計画として、1999年にイミダクロプリドによるひまわり種子処理を、2004年にはトウモロコン値子処理を、からない。 2016年7月、フランス議会にすべてのネオニコチノイド系農業及びフィブロニルの使用 禁止を可決、同規制は2018年9月に発効される一定である。 2008年に、イミダクロプリド、チアメトキサム、クロチアニジンの3種のネオニコチノイ系農業及びフィブロニルによるトウモロコン種子の処理について、予防原則に基づき暫定的に使用が停止された。 2000年にイミダクロプリドの最か表現において使用することを禁止した。 また、2014年3月、オランダ議会は、ネオニコチノイド系農業をより全較的に使用制限 する法案を可決したが、オランダ協会は、ネオニコチノイド系農業をより全較的に使用制限でいない。 スウェーデン でいない。 スウェーデンンの新たな器を取り求めているときれ。さらに2013年、即レベルでの使用場でしまり、農業用のイミダクロプリド・受力の強力を発情とよれ、この法案は免効していない。 スウェーデンとの新たな器を取り求めているときれ。さらに2013年、即レベルでの使用場でしまり、農業用のイミダクロプリド・チアメトキサムの使用の映射の禁止した。 スイスにおいては、2013年、即レベルでの使用禁止と対応して、イミダクロプリド・チアメトキリム、スウェーデンとで参加では、10年に対応して、スウェーデンとで参加を持止と決定して、これらの農業の業種値でトウェロシの種子処理への使用を中止すると発表した。 オーストリア イスにおいては、2013年1月に、クロチアニジン人の使用を禁止した。 2009年にイミダクロプリド・チアメトキリム、クロチアニジン人の場子を処理があると参議をおれている。他方で、2011年4月、上窓以外のトウモロコシの種子へのチアメトキサムとクロチアニジンの処理についても、時中上されている。 2013年の即に対して、2014年のトリー・オンタリオ州では、2015年からトウモロコシの種子へのチアメトキサムとクロチアニジンの処理についても、時中上されている。また、2014年の一般でのネオニコチノイド系農業の使用禁止の事実はなく、一部の由においてネオニコチノイド系農業の使用禁止の事実はなく、一部の由においてネオニコチノイド系農薬の使用を使用が表し、次に見需要権を設するの状況が表しまれている。ただし、複数のネオニコチノド系農薬の使用禁止の事実はなく、一部の由においては、複数の水オニコチノイド系農薬の使用素にフジントン州シアトル市など)が決定を対している。カイド系の表別では近れでは一般で対している。カイド系農薬の管理を検討するリスク評価ラーグションプを開いている。フィブロニルはのは用を発した。 現在のところネオニコチノイド系農薬の管理を検討するリスク評価ラーグションプロに対している。カイデアニジン)の使用を発出した。 現在のところネオニコチノイド系農薬のアプロニルについては、最近で対しを受けて、中国機能を強力ではいている。フィブロニルは対したいといまりでは、11世間を関ロしている、後期の場でエーチノイド系農薬の管理を検討するリスク評価ラーグションプロに対している。カイブロニルはのいない。2014年、11世末を受けて、自然を開いている。 2015年の日に、新規の共和に対しまれている。 2017年の日に、新規の財産が続いている。 2017年の日に対しまれている。 2017年の日に対しまれている。 2017年の日に対しまれている。 2017年の日に対しまりに対しまれている。 2017年の日に対しまれている。 2017年の日に対しまりに対しまりに対しまれている。 2017年の日に対しまれている。 2017年の日には対しまれている。 2017年の日には対しまれている。 2017年の日に対しまれている。 2017年の日には対しまれている。 2017年の日には対しまれてい		ドイツ	ティング用の殺虫剤製品として、ネオニコチノイド系農薬のイミダクロプリド剤3種、 チアメトキサム剤1種、クロチアニジン剤2種の登録を一時停止した。 2013年のEC規制を受けて、ドイツはチアメトキサムとイミダクロプリドを含む数種類の 殺虫剤の登録を停止した。また、2015年にはクロチアニジン、イミダクロプリド、また
日 0 におけたいない。	∪における規	フランス	的措置として,1999年にイミダクロプリドによるひまわり種子処理を,2004年にはトウモロコシ種子処理を一時停止した。 2016年7月,フランス議会はすべてのネオニコチノイド系農薬及びフィプロニルの使用
□ は また、2014年3月、オランダ議会は、ネオニコチノイド系農薬をより全般的に使用制限 する法案を可決したが、オランダ農務大臣はこの可決を妥当とせず、この法案は発効していない。 スウェーデンにおいては、2008年に、すべてのチアメトキサムの承認を取消し、クロチアンでないでない。 スウェーデン化学物質庁により、農業用のイミダクロブリド製品と4つの消費者向け製品の使用が禁止された。 デンマーク 2000年にイミダクロブリドの販売を禁止した。 スイスにおいては、2013年、即レベルでの使用禁止に対応して、イミダクロブリド製品と4つの消費者向け製品の使用が禁止された。 アメトキサム、クロチアニジンの使用の一時的な禁止を決定し、これらの農薬の業種油やトラモロコシの種子処理への使用を中止すると発表した。 スイスにおいては、2013年1月に、クロチアニジン人で使用制造性と対応して、イミダクロブリド、チアメトキサム、クロチアニジンの使用の一時的な禁止を決定し、これらの農薬の業種油やトウモロコシの種子処理への使用を等により、同様を半度計制といて、クロコシの種子のサアメトキサムとクロデアメトキサム、クロチアニジン及びイミダクロブリド、チアメトランの機工を対して、クロチアニジン及びイミダクロブリド、チアメトランの機工を対して、クロラチアニジン人の使用を発生したが禁止された。 他力デ、2011年4月、上記以外のトウモロコシの種子を処理することが禁止された。 他力デ、2011年4月、上記以外のトウモロコシの種子を処理することが禁止された。 他力デ、2011年4月、上記以外のトウモロコシの種子へのチアメトキサムとクロチアニジンの規工を対した。 カナダ連本政府レベルでは、ネオニコチノイド系農薬の使用が禁止されているい。 他力デ、オンタリオ州、バンクーバー市などの条件付きで使用することを許可した。 カナダ連本政府レベルでのは、ネオニコチノイド系農薬の使用を振されている。 またで、オンタリオ州では、2015年からトウモロコシと大豆のネオニコチノイド系農薬の情による使用が2014年から禁止されている。またが、2015年の市においてネオニコチノイド系農薬の使用、販売の禁止(ワンントン州シアトル市など)が決定されている等の状況を対している。またが、有機関のネオニコチノイド系農薬の使用を振されているい。 2015年、ブラジル農業範疇が簡リスク評価を公表すするなどしている。 2015年の市は性は低い旨を公表すとなどしている。 2015年の市は特別を受けて、所ものサンスのでは使用を禁止した。 2014年、アラジル農業職時が高リスク評価と公表すするなどしている。 2015年のに規制を受けて、農業薬の使用は禁止されている。フィブロニルについては、2009年には使用を規制している、輸出を呼びで、2014年、11月日発効)。 但し、土壌の虫馴除にフィブロニルの散布を禁止とすることを決定した。 2014年、11月日発効・のし、2014年、11月日発効・のし、11月日・大きのよりには使用を禁止した。 農業委員会は、2014年5月14日、茶菜へのフィブロニルの散布を禁止とすることを決定した。 2014年、11月日発効・のし、2014年、11月日発効・のフィブロニルの散布を禁止とすることを決定では対したいない。 2014年、11月日発効・のフィブロニルの散布を禁止とすることを決定した。 2014年、11月日発効・のフィブロニルの散布を禁止となるとは対している。フィブロニルの散布を禁止といるとは関制を受けて、原根を呼びでいる。フィブロニルの取りを禁止といるとは関制を受けている。フィブロニルの関係を禁止されている。フィブロニルの関係を禁止とれている。フィブロニルの取りを禁止とれている。フィブロニルの関係を禁止とれている。フィブロニルの関係を発しているのでは関制を受けている。フィブロニルの関係を禁止とれている。フィブロニルの関係を発生を対しまれている。フィブロニルのでは関連がよりに使用を対しまれている。 2015年、アラン・ロニルのでは関連がよりに対しまれている。 2015年、アラン・ロニルのでは関連がよりに対しまれている。 2015年、アラン・ロニルのでは関連がよりに対しまれている。 2015年、アラン・ロニルのでは対しないるのでは対しないのでは対しないのでは対しないのでは対しないのでは対しないのでは対しないのでは対しないのでは対しないるでは、アラン・ロールのでは対しないのでは対しないのでは、アラン・ロールのでは、アラン・ロールのでは、アラン・ロールのでは、アラン・ロールのでは、アラン・ロールのでは、アラン・ロールのでは、アラン・ロールのでは、アラン・ロールのでは、アラン・ロールのでは、アラン・ロールのでは、アラン・ロールのでは、アラン・ロールのでは、アラン・ロールのでは		イタリア	イド系農薬及びフィプロニルによるトウモロコシ種子の処理について、予防原則に基づ
プラジル カナダ 単和の子の では、2008年に、すべてのチアメトキサムの承認を取り消し、クロテアニジンの新たな承認を取りやめているとされ、さらに2013年、即レベルでの使用発出に対応して、スウェーデン化学物質庁により、農業用のイミダクロブリド製品と4つの消費者向け製品の使用が禁止された。 2000年にイミダクロブリドの販売を禁止した。 スイスにおいては、2013年、EUレベルでの使用禁止に対応して、イミダクロブリド、チアメトキサム、クロチアニジンの使用の一時的な禁止を決定し、これらの農薬の菜種油やトラモロコシの種子処理への使用を中止すると発表した。 オーストリア トキサムの使用を禁止した。また、同年、冬穀物への使用も禁止した。 2008年5月、チアメトキサム、クロチアニジンとグアメトキサムとの性用を動した。との機力を対して、クロチアムの検用を禁止した。ことが禁止された。信し、油塩種子については、処理方法の改善により、同年後半使用制限が散磨されている。他方で、2011年4月、上記以外のトウモロコシとをデアルとクロチアニジンの処理についても一時中止されている。 イギリス 2013年の印規制に対して、クロチアニジンとチアメトキサムとクロチアニジンの処理についても一時中止されている。 カナダ 型別域内レベルでは、ネオニコチノイド系農薬の使用は禁止されていない。他方で、オンタリオ州、バンクーバー市など、州や市力・中では対側が行われている。 東郷による権子処理が段階的に禁止されている。また、バンクーバー市では公園管理局による使用が2014年から禁止されている。また、バンクーバー市では公園管理局による使用が2014年から禁止されている。また、バンクーバー市では公園管理局による使用が2014年から禁止されている。また、バンクーバー市では公園管理局がたるで対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、		オランダ	また,2014年3月,オランダ議会は、ネオニコチノイド系農薬をより全般的に使用制限する法案を可決したが、オランダ農務大臣はこの可決を妥当とせず、この法案は発効し
スイスにおいては、2013年、EUレベルでの使用禁止に対応して、イミダクロブリド、チアメトキサム、クロチアニジンの使用の一時的な禁止を決定し、これらの農薬の菜種油やトウモロコシの種子処理への使用を中止すると発表した。 オーストリアトさいては、2013年1月に、クロチアニジン、イミダクロブリド、チアメトキサム、クロチアニジンの使用の一時的な禁止を決定し、これらの農薬の菜種油やトウモロコシの種子処理への使用を中止すると発表した。 2008年5月、チアメトキサム、クロチアニジン、イミダクロブリドについて、トウモロコシの種子、油糧種子、業種、サトウダイコンの種子を処理することが禁止された。但し、油糧種子、業種、サトウダイコンの種子を処理することが禁止された。。他方で、2011年4月、上記以外のトウモロコシの種子へのチアメトキサムとクロチアニジンの処理については、処理方法の改善により、同年後半使用制限が撤廃されている。他方で、2011年4月、上記以外のトウモロコシの種子へのチアメトキサムとクロチアニジンの処理についても一時中止されている。 イギリス 2013年の印規制に対して、クロチアニジンとチアメトキサムについて、国内のナタネ畑のうち58%に対し年間120日間に限るという条件付きで使用することを許可した。カナダ連邦政府レベルでは、ネオニコチノイド系農薬の使用を担合した。イギリカナダ連邦政府といる。イギリカナダ連邦政府といる。オーニコチノイド系農薬の使用禁止でオーニコチノイド系農薬による後生期が2014年から禁止されている。また、バンクーバー市では公園管理局による使用が2014年から禁止されている。また、バンクーバー市では公園管理局による使用が2014年から禁止されている。ただし、複数のネオニコチノイド系農薬の使用禁止(ワシントン州シアトル市など)が決定されている等の状況である。ただし、複数のネオニコチノイド系農薬の使用を手で設まれている。2015年、オーニの手が出たが決定されている等の状況である。ただし、複数のネオニコチノイド系農薬の使用を変配する可能性は低い信を公表したり、2016年1月6日にはまツバチに溶血液を傾用を承認する可能性は低い信を公表したり、2016年1月6日にはまツバチに溶血液を検討するリスタ評価とつみ評価と公表するなどしている。2015年、ブラジル農業部間が周とアラジルで表で表で表で表で表で表で表で表で表で表で表で表で表で表で表で表で表で表した。第400年年には使用を規制している(輸出用等は除く)。農業委員会は、2014年5月14日、茶葉へのフィブロニルについては、2009年には使用を規制している(輸出用等は除く)。農業委員会は、2014年5月14日、茶葉へのフィブロニルの散を禁止するとと決定は、第11日に対していない。2014年5月11日発効)。但し、土壌の虫豚にアイブロニル剤を肝いることは禁止されていない。2014年1月1日発効)。但し、土壌の虫豚にアイド系農薬で育し、期間限定で使用を禁止すると対ないない。2014年1月1日発効)。11年7月1日、2019年には使用を提出しているに対し、2019年1月1日発効)。11年7月1日によりに対しているのでは、2019年1月1日発効・11年1日でのでは、2019年1日に対しているのでは、2019年1月1日によりに対しているのでは、2019年1月1日によりに対しているのでは、2019年1月1日によりによりに対しているに対しているのでは、2019年1月1日によりに対しているのでは、2019年1月1日によりに対しているのでは、2019年1月1日によりに対しているのでは、2019年1月1日によりに対しているのでは、2019年1月1日によりによりによりによりによりによりによりによりによりましているのでは、2019年1月1日によりによりによりによりによりによりによりによりによりによりによりによりによりに		スウェーデン	スウェーデンにおいては、2008年に、すべてのチアメトキサムの承認を取り消し、クロチアニジンの新たな承認を取りやめているとされ、さらに2013年、EUレベルでの使用禁止に対応して、スウェーデン化学物質庁により、農業用のイミダクロプリド製品と4つ
スイスにおいては、2013年、配レベルでの使用禁止に対応して、イミダクロブリド、チアメトキサム、クロチアニジンの使用の一時的な禁止を決定し、これらの農薬の菜種油やトウモロコシの種子処理への使用を中止すると発表した。 オーストリアトキサム、クロチアニジンの使用の一時的な禁止を決定し、これらの農薬の菜種油やトウモロコシの種子処理への使用を中止すると発表した。 2008年5月、チアメトキサム、クロチアニジン、イミダクロプリド、チアメトキサムの使用を禁止した。また、同年、冬穀物への使用も禁止した。とのの種子の理がよることが禁止された。但し、油糧種子、菜種、サトウダイコンの種子を処理することが禁止された。他方で、2011年4月、上記以外のトウモロコシの種子へのチアメトキサムとクロチアニジンの処理についても一時中止されている。他方で、2011年4月、上記以外のトウモロコシの種子へのチアメトキサムとクロチアニジンの処理についても一時中止されている。カナダ連邦政府レベルでは、ネオニコチノイド系農薬の使用は禁止されていない。他方で、オンタリオ州、ベンクーバー市など、州や市レベルでは規制が行われている。カナダ連邦政府レベルでは、ネオニコチノイド系農薬の使用参加のでは、オンタリオ州では、2015年からトウモロコシと大豆のネオニコチノイド系農薬による後手が2014年から禁止されている。また、バンクーバー市など、州や市レベルでは規制が行われている。カナダ連邦政府はに素しまれている。また、バンクーバー市で担間による使用が2014年から禁止されている。また、バンクーバー市では関連による使用が2014年から禁止されている。また、バンクーバー市では関連による使用が2014年から禁止されている。ただし、複数のネオニコチノイド系農薬の使用禁止(ワシントン州シアトル市など)が決定されている等の状況である。ただし、複数のネオニコチノイド系農薬の使用を注とされている。2015年、月のシト・カース・カース・カース・カース・カース・カース・カース・カース・カース・カース		デンマーク	2000年にイミダクロプリドの販売を禁止した。
2008年5月、チアメトキサム、クロチアニジン及びイミダクロプリドについて、トウモロコンの種子、油糧種子、菜種、サトウダイコンの種子を処理することが禁止された。 他力で、2011年4月、上記以外のトウモロコシの種子へのチアメトキサムとクロチアニジンとの大きにより、同年後半使用制限が撤廃されている。他方で、2011年4月、上記以外のトウモロコシの種子へのチアメトキサムとクロチアニジンとが関連についても一時中止されている。 他方で、2013年の即規制に対して、クロチアニジンとチアメトキサムについて、国内のナタネ畑のうち5%に対し年間120日間に限るという条件付きで使用することを許可した。 カナダ連邦政府レベルでは、ネオニコチノイド系農薬の使用は禁止されていない。他方で、オンタリオ州、バンクーバー市など、州や市レベルでは規制が行われている。 具体的には、オンタリオ州・バンクーバー市など、州や市レベルでは規制が行われている。 農業による種用が2014年から禁止されている。また、バンクーバー市では公園管理局による使用が2014年から禁止されている。また、バンクーバー市では公園管理局による使用が2014年から禁止されている。 米国では連邦レベルでのネオニコチノイド系農薬の使用禁止の事実はなく、一部の市においてネオニコチノイド系農薬の使用・販売の禁止(アラスカ州スカグウェイ郡自治市)や市有地・市の管理地における使用禁止(ワシントン州シアトル市など)が決定されている等の状況である。ただし、複数のネオニコチノイド系農薬の使用も進められており、米国環境保護庁(EPA)は、2015年8月26日に、新規の野外用ネオニコチノイド系農薬の使用を承認する可能性は低い旨を公表したり、2016年1月6日にはミッバチに潜在的有害性を持つ殺虫剤イミダクロブリドの予備的リスク評価を公表するなどしている。 2015年、ブラジル農薬戦略防衛局とブラジル環境・再生可能天然資源院(IBAMA)は、綿花及び開花時期に綿花農場から300m以ド、チアメトに潜在的有害性を持つ殺虫剤イミダクロブリドの予備的リスク評価を公表するなどしている。 現境のようながといる、第2015年、ブラジル農薬・両上が指されていない。もっとも、2013年の即規制を受けて、中国農業部農薬検査所(ICAMA)は、ネオニコチノイド系農薬の管理を検討するリスク評価ワークショップを開いている。フィブロニルをかては、2009年には使用を規制している(輸出用等は除く)。 農業委員会は、2014年5月14日、業金の虫駆除にフィブロニル和を用いることは禁止されていない。 2014年、即規制を受けて、農村援助庁(RDA)はチアメトキサム、クロチアニジン、イミダクロブリドの3種類のネオニコチノイド系農薬に関し、期間限定で使用を禁止する			スイスにおいては、2013年、EUレベルでの使用禁止に対応して、イミダクロプリド、チアメトキサム、クロチアニジンの使用の一時的な禁止を決定し、これらの農薬の菜種油
ロコンの種子、油糧種子、菜種、サトウダイコンの種子を処理することが禁止された。但し、油糧種子については、処理方法の改善により、同年後半使用制限が徹廃されている。他方で、2011年4月、上記以外のトウモロコシの種子へのチアメトキサムとクロチアニジンの処理についても一時中止されている。 イギリス 2013年の印規制に対して、クロチアニジンとチアメトキサムについて、国内のナタネ畑のうち5%に対し年間120日間に限るという条件付きで使用することを許可した。 カナダ連邦政府レベルでは、ネオニコチノイド系農薬の使用は禁止されているい。他方で、オンタリオ州では、2015年からトウモロコシと大豆のネオニコチノイド系農薬による種子処理が段階的に禁止されている。また、バンクーバー市では公園管理局によるを規節2014年から禁止されている。また、バンクーバー市では公園管理局による使用が2014年から禁止されている。また、バンクーバー市では公園管理局による使用が2014年から禁止されている。また、バンクーバー市では公園管理局による使用が2014年から禁止されている。また、バンクーバー市では公園管理局による使用が2014年の事実はなく、一部の市においてネオニコチノイド系農薬の使用・販売の禁止(ワシントン州シアトル市など)が決定されている等の状況である。ただし、複数のネオニコチノイド系農薬の青性の評価は進められており、米国環境保護庁(EPA)は、2015年8月26日に、新規の野外用ネオニコチノイド系農薬の使用を承認する可能性は低い旨を公表したり、2016年1月6日にはミツバチに潜在的有害性を持つ殺虫剤イミダクロプリドの予備的リスク評価を公表するなどしている。2015年、ブラジル農業戦略防傷局とブラジル環境・再生可能天然療源院(IBAMA)は、綿花及び開花時期に綿花農場から30の以内で栽培される冬季農作物に対し、3種類のネオニコチノイド系農薬の使用は禁止されていない。もっとも、2013年の即規制を受けて、中国農業部農薬検査所(ICAMA)は、ネオニコチノイド系農薬の管理を検討するリスク評価ワークショップを開いている。フィブロニルのでは、2009年には使用を規制している(輸出用等は除く)。農業委員会は、2014年5月14日、茶業へのフィブロニルの散布を禁止とすることを決定した(2016年1月1日発効)。但し、土壌の虫駆除にフィブロニル剤を用いることとは禁止されていない。2014年、即規制を受けて、農村振興庁(RDA)はチアメトキサム、クロチアニジン、イ間関		オーストリア	
のうち5%に対し年間120日間に限るという条件付きで使用することを許可した。 カナダ連邦政府レベルでは、ネオニコチノイド系農薬の使用は禁止されていない。他方で、オンタリオ州、バンクーバー市など、州や市レベルでは規制が行われている。具体的には、オンタリオ州では、2015年からトウモロコシと大豆のネオニコチノイド系農薬による種子処理が段階的に禁止されている。また、バンクーバー市では公園管理局による使用が2014年から禁止されている。また、バンクーバー市では公園管理局による使用が2014年から禁止されている。また、バンクーバー市では公園管理局による使用が2014年から禁止されている。 米国では連邦レベルでのネオニコチノイド系農薬の使用禁止の事実はなく、一部の市においてネオニコチノイド系農薬の使用・販売の禁止(アラスカ州スカグウェイ都自治市)や市有地・市の管理地における使用禁止(ワシントン州シアトル市など)が決定されている等の状況である。ただし、複数のネオニコチノイド系農薬の毒性の評価は進められており、米国環境保護庁(FPA)は、2015年8月26日に、新規の野外用ネオニコチノイド系農薬の使用を承認する可能性は低い旨を公表したり、2016年1月6日にはミツバチに潜在的有害性を持つ殺虫剤イミダクロプリドの予備的リスク評価を公表するなどしている。2015年、ブラジル農業戦略防衛局とブラジル環境・再生可能天然資源院(IBAMA)は、綿花及び開花時期に綿花農場から300m以内で栽培される冬季農作物に対し、3種類のネオニコチノイド系農薬(イミダクロプリド、チアメトキサム、クロチアニジン)の使用を禁止した。現在のところネオニコチノイド系農薬の使用は禁止されていない。もっとも、2013年の即規制を受けて、中国農業部農薬検査所(ICAMA)は、ネオニコチノイド系農薬の管理を検討するリスク評価ワークショップを開いている。フィプロニルについては、2009年には使用を規制している(輸出用等は除く)。農業委員会は、2014年5月14日,茶葉へのフィプロニルの散布を禁止とすることを決定した(2016年1月1日発効)。但し、土壌の虫駆除にフィプロニル剤を用いることは禁止されていない。		スロベニア	ロコシの種子,油糧種子,菜種,サトウダイコンの種子を処理することが禁止された。 但し,油糧種子については,処理方法の改善により,同年後半使用制限が撤廃されている。他方で,2011年4月,上記以外のトウモロコシの種子へのチアメトキサムとクロチ
他方で、オンタリオ州、バンクーバー市など、州や市レベルでは規制が行われている。 具体的には、オンタリオ州では、2015年からトウモロコシと大豆のネオニコチノイド系 農薬による種子処理が段階的に禁止されている。また、バンクーバー市では公園管理局 による使用が2014年から禁止されている。また、バンクーバー市では公園管理局 による使用が2014年から禁止されている。 米国では連邦レベルでのネオニコチノイド系農薬の使用禁止の事実はなく、一部の市に おいてネオニコチノイド系農薬の使用・販売の禁止(アラスカ州スカグウェイ郡自治 市)や市有地・市の管理地における使用禁止(ワシントン州シアトル市など)が決定さ れている等の状況である。 ただし、複数のネオニコチノイド系農薬の毒性の評価は進められており、米国環境保護 庁(EPA) は、2015年8月26日に、新規の野外用ネオニコチノイド系農薬の使用を承認する可能性は低い旨を公表したり、2016年1月6日にはミツバチに潜在的有害性を持つ殺虫 剤イミダクロブリドの予備的リスク評価を公表するなどしている。 2015年、ブラジル農業戦略防衛しとブラジル環境・再生可能天然資源院(IBAMA)は、 郷花及び開花時期に綿花農場から300m以内で栽培される冬季農作物に対し、3種類のネ オニコチノイド系農薬(イミダクロブリド、チアメトキサム、クロチアニジン)の使用 を禁止した。 現在のところネオニコチノイド系農薬の使用は禁止されていない。もっとも、2013年の 正規制を受けて、中国農業部農薬検査所(ICAMA)は、ネオニコチノイド系農薬の管理 を検討するリスク評価ワークショッブを開いている。フィブロニルについては、2009年 には使用を規制している(輸出用等は除く)。 農業委員会は、2014年5月14日、茶葉へのフィブロニルの散布を禁止とすることを決定 した(2016年1月1日発効)。但し、土壌の虫駆除にフィブロニル剤を用いることは禁止 されていない。 2014年、印規制を受けて、農村振興庁(RDA)はチアメトキサム、クロチアニジン、イ ミダクロプリドの3種類のネオニコチノイド系農薬に関し、期間限定で使用を禁止する		イギリス	
南 米に		カナダ	他方で,オンタリオ州,バンクーバー市など,州や市レベルでは規制が行われている。 具体的には,オンタリオ州では,2015年からトウモロコシと大豆のネオニコチノイド系 農薬による種子処理が段階的に禁止されている。また,バンクーバー市では公園管理局
ける 規制	・南米に	米国	おいてネオニコチノイド系農薬の使用・販売の禁止(アラスカ州スカグウェイ郡自治市)や市有地・市の管理地における使用禁止(ワシントン州シアトル市など)が決定されている等の状況である。
プラジル 綿花及び開花時期に綿花農場から300m以内で栽培される冬季農作物に対し、3種類のネオニコチノイド系農薬(イミダクロプリド、チアメトキサム、クロチアニジン)の使用を禁止した。 現在のところネオニコチノイド系農薬の使用は禁止されていない。もっとも、2013年のEU規制を受けて、中国農業部農薬検査所(ICAMA)は、ネオニコチノイド系農薬の管理を検討するリスク評価ワークショップを開いている。フィプロニルについては、2009年には使用を規制している(輸出用等は除く)。 農業委員会は、2014年5月14日、茶葉へのフィプロニルの散布を禁止とすることを決定した(2016年1月1日発効)。但し、土壌の虫駆除にフィプロニル剤を用いることは禁止されていない。 2014年、EU規制を受けて、農村振興庁(RDA)はチアメトキサム、クロチアニジン、イミダクロプリドの3種類のネオニコチノイド系農薬に関し、期間限定で使用を禁止する	け る 規		庁(EPA)は、2015年8月26日に、新規の野外用ネオニコチノイド系農薬の使用を承認する可能性は低い旨を公表したり、2016年1月6日にはミツバチに潜在的有害性を持つ殺虫剤イミダクロプリドの予備的リスク評価を公表するなどしている。
中国	アジア	ブラジル	綿花及び開花時期に綿花農場から300m以内で栽培される冬季農作物に対し、3種類のネオニコチノイド系農薬(イミダクロプリド、チアメトキサム、クロチアニジン)の使用を禁止した。
お		中国	EU規制を受けて,中国農業部農薬検査所(ICAMA)は,ネオニコチノイド系農薬の管理 を検討するリスク評価ワークショップを開いている。フィプロニルについては,2009年 には使用を規制している(輸出用等は除く)。
│ 規 │	おけ	台湾	した(2016年1月1日発効)。但し、土壌の虫駆除にフィプロニル剤を用いることは禁止 されていない。
	規	韓国	ミダクロプリドの3種類のネオニコチノイド系農薬に関し、期間限定で使用を禁止する

❷ 資料1:ネオニコチノイド系農薬の成分名と代表的商品名

	成分名	代表的商品名
1	クロチアニジン	フルスウィング、ダントツ系、ハスラー系、モリエート系、ベニカ系、プロパック、 オルトラン DX 粒剤、ワンリード、キクゾー、ベニカケムシエアゾール、ツインター ボ、箱入り娘、ガーディアンアシスト、サイクルヒット、トライ、トライ 2、箱王子、 カイガラムシエアゾール、チームワーク、ボクシー、マッキーノ、スタウトパディー ト、箱大臣など。
2	スタークル系、アルバリン系、イッカツ系、ワイドナーエース、トレボンスター系統、わさび用緑風 SG、サジェスト微粒剤 F、アントム顆粒水和剤、キックオフ顆粒水和剤、スターガード系、ワッショイ粉剤 DL、アトラクトン箱粒剤、スターダム箱粒剤、ロングリーチ箱粒剤、スケルカット、スケルノック、オールスター、ウッドスター系、ウッドセーバー、ハイポネックス原液(殺虫剤入り)、ハイポネックス原液(プラス殺虫剤)、ガッツスター、ゴウケツモンスター粒剤、サントリプル箱粒剤、ハイパーキック箱粒剤、ゴウケツバスター箱粒剤、サンフェスタ箱粒剤など。	
3	ニテンピラム	ベストガード系、ベスト系 (パダンベストなど)。
4	イミダクロプリド	アドマイヤー系、ブルースカイ系、ガウチョ系、タフバリア系、フルサポート系、パワーリード系、アースガーデン、ワークワイド顆粒水和剤、リードックフロアブル、キラップAD粒剤、ルーチン系(ルーチンアドスピノなど)、ガードナーフロアブル、タフスティンガーフロアブル、シャリオ箱粒剤、エバーゴル系(エバーゴルフォルテ箱粒剤など)など。
5	チアメトキサム	アクタラ系、クルーザー FS30、リーズン顆粒水和剤、ビートルコップ顆粒水和剤、カダンスプレーEX、アトラック液剤、デジタルメガフレア箱粒剤、ガーディー系、カダンプラスDX、花華やか、ジュリボフロアブル、キープレイヤー、花色彩、クルーザー系、デジタルメガフレア箱粒剤、ツインアタック顆粒水和剤、ミネクトデュオ粒剤など。
6	アセタミプリド	モスピラン系、イールダー、カダン殺虫肥料、マツグリーン液剤、レインボーフラワー系、モストップジンRスプレー、マイテミンスプレー、ダイリーグ粒剤、アベイル粒剤、イマージ液剤など。
7	チアクロプリド	バリアード系、エコワン系、ブイゲット系など。
8	スルホキサフロル 2017年 12 月承認	トランスフォームフロアブル、日産トランスフォームフロアブル、ホクコートランスフォームフロアブル、エクシードフロアブル、日産エクシードフロアブル、ホクコーエクシードフロアブル 検査は近日中に対応予定
9	フィプロニル	プリンス系、ギャング系、ピカピカ粒剤、コメホープ箱粒剤、北おろし箱粒剤、トップチョイスフロアブル、ハコナイト粒剤など
10	フロニカミド	ウララ系
11	エチプロール	キラップ系、ゲットワン系、フジワンラップ粒剤、ダブルカット系、ルーチンクアトロ箱粒剤、ホクセットエース粉剤 DL、トライ系、ワイドパンチ豆粒など。
	0	チプロールは ラオニコチノイド玄典薬ではおりませんが ラオニコチノイド玄典薬と同じとうか

フィプロニル、フロニカミドやエチプロールは、ネオニコチノイド系農薬ではありませんが、ネオニコチノイド系農薬と同じような 影響を環境に与えているのではないかとして、注目されている薬剤です。

分析料金一覧表

いずれも消費税別

分析項目	検査機	一般会員	募金協力会員	農民連会員
食品放射性物質汚染の分析				
迅速分析(米、土など、前処理不要のもの)	NaIシンチ	8,000	6,000	4,000
迅速分析(野菜、魚など前処理がいるもの)	NaIシンチ	12,000	9,000	6,000
Ge検出器による精密分析(米、土など)	ゲルマ	15,000	11,250	7,500
Ge検出器による精密分析(野菜、魚など)	ゲルマ	19,000	14,250	9,500
残留農薬分析				
残留農薬一斉分析GC/MS 272成分コース	GC/MS	30,000	22,500	15,000
残留農薬一斉分析LC/MS/MS 131成分コース	LC/MS/MS	25,000	18,750	12,500
残留農薬一斉分析フルセットコース(378成分)	GC/MS,LC/MS/MS	55,000	41,250	27,500
残留農薬一斉分析ネオニコチノイド系農薬7剤+2剤	LC/MS/MS	24,000	18,000	12,000
残留農薬グリホサート分析	LC/MS/MS	24,000	18,000	12,000
残留農薬単一成分分析(上記コースに含まれないも)の)	10,000~	7,500~	5,000~
食品添加物分析など				
さまざまな食品添加物などの検査	各種	15,000	11,250	7,500
栄養成分分析				
ビタミンC分析(簡易法)	RQ Flex	7,000	5,250	3,500
ビタミンC分析(精密法)	HPLC法	12,000	9,000	6,000
アミノ酸分析(野菜、お茶、肉など)	HPLC法	60,000	45,000	30,000
食品の糖度測定	Brix法	6,000	4,500	3,000
食品の酸度測定	Brix法	6,000	4,500	3,000
遺伝子組換え作物検出試験				
簡易検出試験(イムノクロマト法)	イムノ	7,000	5,250	3,500
PCR法による精密定性法	PCR法	20,000	15,000	10,000
リアルタイムPCR法による精密定量法共同研究	RT-PCR法	対象作物種による	対象作物種による	対象作物種による
重金属分析				
検査対象重金属が1つの場合	原子吸光	10,000	7,500	5,000
+1金属ごとに		5,000	3,750	2,500
米の品種DNA判定				
特定品種定性判定(コシヒカリ、あきたこまち、はえば	PCR法	12,000	9,000	6,000
コシヒカリ品種精密定性判定(BLなど)	PCR法	15,000	11,250	7,500
その他の品種のDNA判定	PCR法	36,000	27,000	18,000
特定品種定量判定(混入率判定)	PCR法	60,000	45,000	30,000
その他の品種のDNA判定(混入率判定)	PCR法	70,000	52,500	35,000
米の鮮度判定				
米の鮮度簡易判定	pH,グアヤ	6,000	4,500	3,000
油脂類の品質評価試験				
脂肪酸組成測定	GC法	15,000	11,250	7,500
脂肪酸価測定		7,000	5,250	3,500
酸価測定		7,000	5,250	3,500
ケン価測定		7,000	5,250	3,500
異物混入試験				
異物混入試験総合		20,000~	15,000~	10,000~